

予算特別委員会委員長報告

ただいま議題となりました令和6年度神戸市各会計予算及び関連議案、合計53議案について、委員会審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

まず、元日に発生した能登半島地震では、広範な地域で甚大な被害が発生しました。あらためて犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。そして被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。本市は、2025年1月には阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。震災を経験した神戸として、一日も早い復旧・復興のため、被災地に寄り添い、息の長い支援を行っていくことが必要であります。

現在、東京一極集中や孤独・孤立、地域社会の希薄化、長引く物価高騰や気候変動による自然災害の増加など、多くの政策課題に直面しています。中でも全国的な少子・高齢化に伴う人口の自然減が加速し、本市においても人口減少の傾向が顕著になっています。高度経済成長期以降に開発したニュータウンでは、オールドタウン化の進行や都市のスポンジ化が顕在化していくことが想定されます。今後は、本市が保有するデータやエビデンスに基づいた政策立案（EBPM）により、人口減少時代にふさわしいまちづくりを進めていく必要があります。

こうした点から、令和6年度予算案では、くらしの質と都市の価値を高め、市民一人一人が幸せを実感でき、温かみのあるまちづくりを進めるための施策、また、果敢な成長戦略により未来を見据えた持続可能な自治体経営を行うとともに、国際都市としての価値を高め、神戸をさらなる高みへ押し上げることで、「海と山が育むグローバル貢献都市」の実現を確かなものにしていくための施策など、様々な提案がなされました。

委員会は、去る2月22日に議案の付託を受けて以来、3つの分科会を設け、2月26日から3月6日まで局別審査、さらに11日には市長・副市長等に対する総括質疑を行いました。

それでは、委員会審査において議論となりました主な事項について、簡単にご報告申し上げます。

まず、市政全般に関するものとして、今後の財政運営、神戸空港の国際化、王子公園や都心・三宮の再整備、ウォーターフロント再開発、神戸2024世界パラ陸

上競技選手権大会の開催、市バス乗車料金・水道料金の改定、地域コミュニティ交通、行政手続きのスマート化などについて議論がありました。

次に、施策別では、「経済・産業・観光」に関しては、ナイトタイムエコノミーの推進、商店街・小売市場の活性化、カーボンニュートラルの取組、国際コンテナ戦略港湾の推進、クルーズ客船の誘致、神戸登山プロジェクトなどについて、

「子育て・教育」に関して、産後ケア事業、病児保育や学童保育の充実、高校生等の通学定期券補助の大幅拡充、不登校児童生徒への支援、教職員の職場環境の改善などについて、

「健康・福祉・環境」に関しては、フレイル対策、障害児・者への計画相談支援の充実、ひきこもり支援、再生可能エネルギーの拡大、クリーンステーションのあり方などについて、

「安全・安心なまちづくり」に関しては、大規模災害時における初動体制強化、防犯カメラの設置、マンションの適正管理、空き地・空き家対策、地域活動への支援などについて様々な議論がありました。

委員会では、このような審査の後、3月11日に森本真委員ほか7名から予算の編成替えを求める動議が提出され、13日には各会派からの意見表明及び意見決定をそれぞれ行いました。

その結果、大型開発への偏重、市バス乗車料金・水道料金の改定、エネルギー価格・物価高騰への対応などを理由とする反対意見もありましたが、SDGsの視点に基づき神戸2025ビジョンに掲げる施策の展開により、くらしの質と都市の価値を高め、未来を見据えた持続可能な大都市経営を実現していくとともに、神戸空港の国際化に向けた取り組みによる新たな国際都市の形成など、全国的な人口減少局面においても、常に時代をリードする果敢な成長戦略により、都市の成長を促す好循環を創出する施策が積極的に盛り込まれた予算となっていると判断できることから、委員会は動議を否決した上で、令和6年度神戸市各会計予算及び関連議案、合計53議案については、いずれも原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、委員会の要望事項について申し上げます。

まず、神戸空港についてであります。

神戸空港が、国内外を問わず、より多くの人に利用していただくためには、空港機能のさらなる強化と、神戸が国際都市としての価値をさらに高めることが必

要です。

よって、神戸空港の国際定期便や国際チャーター便の就航に向けて、利用者増に対応できる利便性の高い空港整備を遅滞なく進めるとともに、世界のエアラインに対して、神戸と神戸空港の魅力発信・プロモーションに積極的に取り組まれないのであります。

次に、まちの賑わい創出についてであります。

都市の成長を促す好循環を創出するためには、まちの魅力と活力をさらに高めることが必要です。

よって、まちの賑わい創出のため、神戸ルミナリエなどイベント開催時において、近隣の飲食店等へ経済効果が波及する仕組みを構築し、ナイトタイムエコノミーの充実を図りたいのであります。

また、神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会について、万全の準備をもって安全に開催するとともに、大会を応援する飲食店を募るなど、神戸のまちが元気になっていく施策に積極的に取り組まれないのであります。

次に、切れ目のない子育て支援策についてであります。

子供達の健やかな成長を守り、本市が将来世代から選ばれるまちになるためには、切れ目のない子育て支援策を充実させることが必要です。

よって、病児保育や小児科・産婦人科の確保・充実、利用しやすい産後ケア事業など、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を強化するとともに、子育て施策全般について、効果的かつ戦略的な情報発信に努められたいのであります。

また、境界知能への理解を深め、寄り添った支援を行うため、未就学児の段階から必要な検査を実施されたいのであります。

次に、教育環境の充実についてであります。

次世代を担う子供たちが、未来を切り開くために必要な教育を安心して受けるためには、学びの環境整備とそれを担う教職員へのサポートが必要です。

よって、スクール・サポート・スタッフの全校配置などを契機に、さらなる教職員の職場環境の改善に取り組まれないのであります。

また、全小・中学校における校内サポートルームの整備・支援員の配置、授業のライブ配信などによる不登校児童生徒への支援に努められたいのであります。

次に、市営交通事業の経営改善についてであります。

人口減少・超高齢化が進行する中、「市民の足」としての公共交通を守り存続させていくためには、これまで以上に様々な経営努力が必要です。

よって、市営交通事業については、広告収入増に向けて成果主義を取り入れるとともに、保有不動産の利活用に取り組まれないのであります。

また、バス待ち環境の改善を図るなど、さらなるサービスの拡充に努められないのであります。

以上、委員会審査の経過並びに結果及び要望事項についてご報告申し上げました。

終わりに当たり、委員会運営に終始ご協力をいただきました副委員長、理事の皆様、並びに連日熱心な審査を賜りました委員の皆様にご心から敬意と感謝の意を表しまして、報告を終わります。